

顧問 中澤 誠一郎先生を偲ぶ

本会の顧問 中澤 誠一郎先生には、去る昭和61年8月29日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

中澤誠一郎先生は、明治29年1月24日京都市のお生まれで、大正9年7月に東京帝国大学工学部建築学科を卒業された。

ただちに内務省に入られ、内務省、大阪府、愛知県において、都市計画並びに建築行政の分野で、建築監督官、警察部建築課長、内務省第二技術課長、内務省防空研究所長などを歴任され、数々の業績をあげられた。

折にふれてお聞きした話題のいくつかを挙げれば、つぎのようである。はじめて大阪府へ赴任された頃、手ほどきを受けたのは、先輩池田 実 技師（明治37年東大建築卒業）であった。またその頃に監督官として竣功検査に行かれたのが、前の中之島大阪市庁舎の新築工事であったという。大阪駅前の関西風土壁の実物家屋を用いて、現地で火災実験をされたことや、市街地発展パターンの実地調査を、失業対策事業をもって試みられた、など話題は尽きない。愛知県、内務省におられても、台風、高潮、津波、大火、地震、防空、疎開などに関する、都市計画並びに建築行政がそのお仕事であった。この間どこでも、たくさんの方の後進を指導され人材を育てられた。

昭和22年、建物敷地の計画基準についてのご研究で、工学博士の学位をお受けになった。

大阪に戻られた第二のお仕事は、新制度による大阪市立大学の出発であった。昭和24年、教授として迎えられた先生の手で、工学関係の大学づくりが進められた。都市計画を含んだ、博士コースを持つ大学院工学研究科も軌道に乗せていただいた。昭和31年、大学を定年で退職された後も、引き続き最後まで、非常勤講師として、たくさんの方の、学生・研修生・留学生などのご指導をいただいた。

先生は、大学の定年退職後、19年にわたり個人の建築設計事務所を開かれた。いくつかの再開発事業や、国際競技設計への応募など、実務家としての業績とあわせ、ここでもたくさんの方の後進を育て、技術者を仕込んでいただいた。一方で審議会委員なども数多くされた。

日本都市計画学会には、その最初から、発起人として、また役員として関与された。その時期から長老格で



あった先生は、昭和40年以降は顧問として、学会の発展に寄与されたことは、会員各位のご存じのとおりである。

先生の晩年の学問的関心は、都市総合調査や環境アセスメントにおける、論理の乱れを正すことにあった。先生の86歳の肩寿記念刊行書『都市学と総合アセスメント』（1982）は、先生の手になるその取りまとめであった。ハレー彗星を2度眺める機会を持った先生は、そのご生涯の最後まで枕もとにノートを置いて、メモを書き続けられたという。かねて、学者として寿命のながい伊能忠敬や貝原益軒に、私淑されており、それよりさらに長い研鑽の年月を歩まれた。

ここに都市計画の大先達のご業績を称えながら、ご冥福をお祈りしたい。なお先生は故郷亀岡の地に眠られている。

本会理事 大阪市立大学教授 三輪雅久

略 歴

明治29年1月24日 京都市に生まれる
大正9年 東京帝国大学工学部建築学科卒業
内務省に入る 都市計画課勤務
大正10年 大阪府警察部 技師
大正13年 愛知県警察部建築課長
昭和7年 大阪府警察部建築課長
昭和14年 内務省計画局第二技術課長
昭和17年 内務省防空研究所長
昭和21年 依願免官
昭和22年 工学博士
昭和24年 大阪市立大学教授
昭和31年 同大学定年退職 以後非常勤講師
昭和41年 勲三等瑞宝章
昭和32～51年 建築事務所経営
昭和40年 日本都市計画学会 顧問
昭和61年8月29日 永眠 享年90歳

(完)

(大阪市立大学教授)

京都市生まれ。明治29年(1896)～昭和61年(1986)。三高から東京帝国大学工学部建築学科を大正9年7月卒業。ただちに内務省に入る。大臣官房都市計画課を振り出しに、大阪府、愛知県の建築監督官、警察部建築課長、内務省では計画局第二技術課長、防空研究所長など歴任。昭和21年退官。この間、行政官として都市計画法・市街地建築物法等の施行に携わる。

大阪府では、先輩池田実技師(明治37年東大建築卒)に出会う。後に調査報告や論文となった作業に、大阪駅前の関西風土壁実物家屋の火災実験、大阪近郊市街地発展パターンの実地調査、京都都心部街区の実態調査などがある。また、室戸台風、同じく高潮、三陸津波、各地の大火、地震、緑地、民防空、疎開など、さまざまな行政課題と取り組んだ。

昭和22年、建物敷地の計画基準に関する論文で、東大から工学博士の学位を受ける。

戦後は大阪居住で、昭和24～31年、新制大阪市立大学工学部教授となり、都市計画構座を担当し、工学部建築学科、同大学院修士・博士課程で教育・研究・運営に携わる。定年後も同大学院で最後まで、斬新なテーマの講義を担当した。

定年退職後、在野の都市学者を自任し、かたわら19年にわたり建築設計事務所を自営した。

大阪市政研究所、日本都市計画学会、日本建築学会など、とりわけ日本都市学会、近畿都市学会に、役員もしくは会長として関与した。都市学では吉富重夫(行政学)、大道安次郎(社会学)、藤岡謙二郎(地理学)等と親交があった。

晩年の学問的関心は、都市総合調査や環境アセスメントにおける総合判断の論理を正すことで、86歳の刊行となった中澤誠一郎著『都市学と総合アセスメント』(1982年)は、そのとりまとめである。ちなみにこの文献に経歴と著作目録が載っている。

理路整然と正論を立て、引くときは黙って引く。若い時代から清談をもって聞こえた、その判断と論旨の明析さは、終生変らなかつた。寿命の長い学者として伊能忠敬と貝原益軒に私淑し、最後まで枕元に研究ノートを離さなかつたといわれる。90歳の大往生であった。墓所は京都府亀岡市にある。

